とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	にしおぎ駅前保育園
法人名	株式会社小学館アカデミー
法人所在地	東京都　杉並区　松庵　3-35-15

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

音
（様々な音に触れて親しみを持つ）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
月2回行っているダンスあそびの音楽や朝の会、帰りの会での合唱など自然に音楽に触れながら生活している。日頃から保育士が弾いているピアノに興味を持ち「触ってみたい」「弾いてみたい」という声が聞かれる。そういった姿から様々な音の種類について知り、体験していくことで興味関心をさらに深めていくため。

２．活動スケジュール

・様々な楽器について知る（11月）
・実際に音を鳴らし、音の違いについて感じる（11月）
・友だちと音を合わせてみる（12月）
・人前で表現する（１月）
・月に２回講師を招いてダンス遊びをする（通年）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
《準備物》
〇楽器あそび→楽器（ピアノ、鈴、タンブリン、トライアングル、小太鼓、木琴）
〇ダンスあそび→月に２回講師を招いて保育士と連携して活動
《環境設定》
〇楽器あそび→様々な楽器に触れて興味が広がるように、用意した全ての楽器を並べて自由に触ったり音を出したりできるようにした。
〇ダンスあそび→スペースを広くとり、音楽に合わせて思い切り動けるようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・楽器の種類を知り興味関心を広げる。
・「やってみたい」という気持ちを大事にしながら興味を持った楽器を演奏してみる。
・音の大きさや種類の違いについて気付いたことを保育者や子ども同士で共有する。
・好きな楽器を見つけて友だちと音を合わせる楽しさを感じる。
・興味のある音楽に合わせて様々な動きを取り入れながら身体を動かすことを楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
〇鈴、トライアングル、タンブリン、木琴、小太鼓を出して保育者が音を出してみる。
・保育者「どんな音がするかな？」（小太鼓）
　→子ども「どんどんって音」「もっと大きな音でる？」
・「これ（トライアングル）はなんていう楽器？」
・「ぜんぶやってみたい」
・「タンブリンはしってるよ」
〇順番に全部の楽器に触れてみる。
・「これ（トライアングル）はずっと音がなってる」
・「木琴はいろんな音がするよ」
・「太鼓叩くの初めて」
　→そっと弱い力で叩いてみる姿があった。
　→保育者が小太鼓を強弱をつけて叩いてみると真似をしてやってみる児がいた。
　→タンブリンでも同様に試していた。
〇気に入った楽器を選び、保育者のピアノ（きらきら星やかえるのうたなど親しみのある曲）に合わせて演奏してみる。
・「できた！」
・「太鼓の音大きいね」
・「もっと色んな曲でやってみたい」

〇ダンス遊び
・講師「手をひらひらさせるよ」「お花がひらくみたいに広げて」
　→子どもは講師の表現する言葉に合わせて身体を動かしていた。
　→音楽に合わせて自分なりに表現することも楽しむ姿があった。
　→運動会で披露し、人前で表現することの嬉しさも感じていた。








5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・様々な楽器に興味を持ち、どのような音がしたかどのように感じたかを言葉にしていた。
・楽器事の特徴に気付く姿が見られ、保育者や友だちと共有する姿も見られた。
・全員で音を合わせる前は近くにいる友だちと一緒に音を合わせたり、感じたことを伝え合ったりして共有する姿が見られた。
・音を合わせる難しさを感じながらもみんなで演奏する楽しさを感じながら表現していた。
・ダンス遊びは好きな曲を講師にリクエストして、保育士と連携して行うことにより、様々な動きを楽しむ姿が広がりがあったので、日常の保育でも継続的に触れていきたい。
・様々な音の種類について知る経験を得られたので、身近なもので楽器を作り音を出して遊ぶ楽しさを感じるなど、今後の活動に繋げて引き続きに行っていきたい。